

新型コロナとインフルエンザ 冬に備えてどのワクチンをいつ受ける

2022年11月16日 志賀隆・国際医療福祉大医学部救急医学主任教授（同大成田病院救急科部長）毎日新聞



試験点灯でライトアップされた永観堂禅林寺の紅葉。秋が深まり、第8波が予想される冬が近づく＝京都市左京区で2022年11月2日午後5時57分、山崎一輝撮影

現在は、新型コロナウイルス感染症の感染者数はまだそれほどではなく、行動の制限も緩和されています。本当にありがたい状況です。ただ、このコロナ禍の3年を考えると、冬に第8波が来る可能性は極めて高いと考えられます。それどころか、最近の感染者数の動向をみると「第8波はもう始まっている」という方が正確かもしれません。さらに、感染対策をずっと続けることは難しいのでインフルエンザの流行もあるかもしれません。一方で、新型コロナのオミクロン株対応ワクチンの接種率は、対象人口の10%程度となっています。ということで今回は、どうやってワクチン接種を受けていくのがよいか、について説明します。

2種類ある「オミクロン株対応」ワクチン

新型コロナのワクチンには現在、もともとの「武漢株」だけに対応したワクチンと、武漢株に加えてオミクロン株のBA.1にも対応した「2価ワクチン」、そして武漢株とオミクロン株のBA.4、BA.5に対応した2価ワクチン、の3種類があります。どのワクチンでも、接種を受けた人の血液中には、新型コロナに対する抗体ができます。ただしその量（抗体価）は、時間とともに低下していくと考えられています。

このうち、BA.1対応の2価ワクチンを接種した臨床試験のデータをみてみましょう。

この研究では、モデルナ社の従来のワクチン（武漢株に対応）と、新しい2価ワクチン

(武漢株とオミクロン株 BA.1 に対応)を、それぞれ約 400 人ずつに接種して、接種後の抗体価を調べました。なお、この研究で接種を受けた人たちはみな、過去 3 回のワクチン接種を受けており、研究での接種は 4 回目 (2 回目の追加接種) でした。

すると、3 種類のオミクロン株 (BA.1、BA.4、BA.5) に対する抗体価は、2 価ワクチンを受けた人たちの方が、いずれもやや高いという結果になりました。

また、まだプレプリント (著者以外の専門家による内容のチェックが終わっておらず、医学誌に掲載される前の論文) ですが、BA.5 に対応した 2 価ワクチンの接種を受けた場合、体の中で BA.1 や BA.5 への抗体がどの程度増えるかを調べた研究も出てきました。

BA.5 に対応した 2 価ワクチンを接種された人は、当然ですが、BA.5 に対する抗体価が上がります。一方、比較のために従来のワクチンの接種を受けた人も、BA.5 への抗体価は、2 価ワクチンの場合よりやや低めながら、やはり上がるとの結果になっています。

また、上の二つの研究とは別に、新型コロナのワクチンを作っているファイザー社が、11 月 4 日にプレスリリースを出しました。そのリリースによると「55 歳以上の人に、2 価ワクチンを追加接種として打った結果、BA.4、BA.5 に対する抗体価は、従来のワクチン (武漢株に対応) の追加接種を受けた人たちに比べて 4 倍になった」そうです。

なお、BA.4、BA.5 のワクチンについては、まだ副反応のデータが十分に集まっていません。しかし、現在最も流行しているのは BA.4、BA.5 ですので、やはりこちらを接種できるのなら選びたいところです。

どの種類のワクチン接種をいつ受けるか

今後、感染の第 8 波が来ることはまず間違いないでしょう。日本では、流行している新型コロナウイルスのうち 10 月上旬で BA.5 が 90% を占めていました。この状況では、上述のオミクロン株対応ワクチンの接種を受ける機会があれば、早めに受けた方がいいと考えられます。副反応のデータがあまり集まっていないという点が気にならないければ、オミクロン株対応の中でも、BA.4、BA.5 対応のワクチンの接種を受けるのがよいでしょう。また、接種可能なのが BA.1 対応のものだけで、BA.4、BA.5 対応ワクチンはいつ接種を受けられるかわからない、という状況なら、厚生労働省の方針、つまり「早く受けられる方を受ける」に従って、BA.1 対応のものを打つことが現実的ではないかと考えられます。

インフルエンザのワクチンは

新型コロナのワクチンとインフルエンザのワクチンを同時に接種してもらうことも可能ですし、しばらく期間を置いて両方の接種を受ける方法もあります。

現在の政府の方針は「もし新型コロナとインフルエンザが同時に流行して医療が逼迫 (ひっぱく) した場合には、重症化リスクが低い人は自宅で自分で新型コロナの抗原検査をし、陰性なら受診を検討」というものです。ただ、インフルエンザの症状も高熱と倦怠 (けんたい) 感で非常につらいものです。発熱外来は今年の冬もとても混んでいると思われます。だとすると、ワクチン接種を受ける、屋内で会話をする際にはマスクをする、などによって、インフルエンザについても対策をしておいた方がよいでしょう。

厚生労働省は、今シーズン用のインフルエンザワクチンの供給量を、3521 万本と見込んでいます。大まかにいうと 1 本で大人 2 人に接種ができますから、3521 万本は、国民の半数強が接種を受けられる量です。言い方を変えれば、半数弱の人は接種を受けないこととなります。

それでは接種を受けることが、特にお勧めなのはどんな人でしょうか。

まず、65歳以上の方は、予防接種法の規定によって、公費で接種が受けられます。また、接客などで会話が深い方や、慢性疾患がある方（糖尿病、高血圧、肺気腫などで定期的に通院して薬剤を飲む必要がある方）は、受けられる場合には接種を受けた方がよいでしょう。

なお、世界保健機関（WHO）は、以下の方に毎年、インフルエンザワクチンの接種を推奨しています。

- ・妊婦
- ・生後6カ月から5歳までの子ども
- ・高齢者（65歳以上）
- ・慢性疾患を持つ方

ワクチン接種を受けたみなさんには、新型コロナで命の危険が生じる、という可能性はかなり減りました。ただ、まだ接種を受けていない方にとっては、肺炎になったり入院したりする心配があり、命にかかわることもあります。冬は新型コロナやインフルエンザだけでなく、肺炎、心疾患、脳卒中などの患者が増えますから、医療機関は忙しいです。発熱するととてもつらいですが、夏の「波」のときのように、医療機関は混雑してしまっただけでなく、なかなか受診は大変だと思います。「受けられるワクチン接種を受ける」「解熱剤を準備する」「新型コロナを自宅で検査できるように準備する」「マスク・手洗いなどの感染対策をする」「感染が増えたら忘年会はオンラインなどに切り替える」など、この3年で培った知恵を総動員していただけますと幸いです。